

ご報告

学校の先生方とともに考える心臓病談話会 を開催いたしました。

文責；小児循環器部門 講師 石戸博隆

2015年11月28日（土）、当院看護部およびメディカルアシスタント部門協力の下、当小児循環器部門主催の「学校の先生方とともに考える心臓病談話会」を開催致しました。

当日は、お忙しい中を、埼玉県全域から70余名もの学校の先生方、学校職員の方々のご参加を賜りました。皆様の熱意に感謝と敬意の念を禁じ得ません。

当日は14時半より開始とし、以下の2部構成で会を進めました。

1. こどもたちの心臓病 -医師から先生方にお伝えしたいこと-

☆レクチャー形式で、具体的な心疾患等に関し、医師側から解説いたしました

- ・心疾患児の一般的諸問題；

彼らは何に困っているのだろうか？ 栗嶋クララ医師

- ・学校生活では何に気を付けるべきか？ 岩本洋一医師

- ・「不整脈と学校生活」

運動や興奮は危険?? 桑田聖子医師（代理 石戸）

- ・「川崎病」 心筋梗塞になりやすい?? 築明子医師

- ・「運動制限と日常生活」

学校生活管理指導表をどう活かす？ 増谷聡准教授

2. シンポジウム -学校の現場では何が起き、何に困っているのか-

☆パネラーの皆様から体験談やお考えをご発表いただいた後総合討論を行いました

- ・「こども達は何に当惑しているのか」 患者さん側の立場から

患者さん代表 上村萌音さん、親御さん代表 近藤直子さん

外来看護師 大津幸枝看護師

- ・「心臓病のこども達との関わり方」 学校の先生方から

担任教諭として 深谷市立深谷小学校 平塚愛先生

校長先生として

「学校は人の育つところ」 滑川町立月の輪小学校 馬場敏雄先生

治療の乗り越え生活の場に戻り、学校に通うことのできることも達が飛躍的に増えたことは、患者さん及びご家族にとっても、我々医療者にとっても大きな喜びです。

一方、種々の疾患背景を持つお子さんたちに関し個々に理解を深める必要に迫られる学校の先生方と、疾患に関しては詳しいが患児たちの実生活が如何なるものであるかをほとんど知らない我々医療者とは、これまで意見交換の場をほとんど持つことがないと言っても過言ではない状況でした。

今回は学校の先生方と我々との双方の距離を縮め、心臓病のこどもたちが、より安全かつ意義深い学校生活を送れるよう連携してゆく、その第一歩としたいと考え、本会を企画いたしました。

初めての会合で、どのような内容が適切か、かなり迷いながらの会でした。

兎にも角にもこのような会合自体を開きえたこと、また患者様やご家族、そして現場の先生方の貴重な体験談やお気持ちを直接伺えたことで、おおむねご好評をいただきほっと胸をなで下ろしております。

一方、第1部での当科スタッフの話が長すぎたことで時間が大きく延長となってしまう、途中で退席せざるを得ない参加者の方が少なくなかったことは大きな反省材料と考えております。また、皆様にご協力いただいたアンケートからは、テーマを絞った疾患解説や、具体的な症例にどうコミットしてゆくべきかのケースカンファランス、Q&Aをもっと長く、等々のご希望があり、今後とも継続的にこの会を運営してゆく上で大きな参考となりました。

運営形態は変更する可能性があります、今後とも継続的に学校の先生方との交流の機会を設定して参ります（来年も本会の開催を予定しております！！）。

当科からも懸命に情報発信して参りたいと存じますし、また学校の先生方からも貴重なお考えや体験をご教示いただけるのを楽しみにしております。皆様、今後ともよろしくお願い申し上げます。

雑事に紛れ、ご報告が大変に遅くなりましたことを深くお詫び申し上げます。

埼玉医科大学総合医療センター小児循環器科 先崎秀明

小児循環器科医師。スタッフ一同